

新宮山彦ぐるーぷ第2027回  
前鬼・小仲坊で排水路に落下した大木の撤去作業と薪造り

◇実施日：2019年06月16日（日） 晴  
◇参加者：沖崎吉信、川島 功、湯川一郎、上村洋司・和美、  
大江加代子、山川治雄・自知、樋口義也、梶野照雄、  
志岐 敬。 11名。

先月5月19日、熊野修験奥駈行(玉置山く前鬼)の接待を持経宿で終えて前鬼・小仲坊へ移動し、従来より行っている討伐材の処理と薪造りを行った。その折、斜面の大木(直径60cm位)を森本坊(五鬼継)との境界の排水路に落としてしまった。大雨が降れば水があふれて被害が出ることも予想され、その撤去が早急な課題となっていた。



排水溝に落ちた大木



杉の木を渡す

6月10日天台寺門宗の行仙宿での接待時、「今度の日曜日にやろう」と決まり、呼びかけた結果、右の11名の皆さんが参加してくださった。

当日午前9時、沖崎、湯川、山川、梶野の車4台で小仲坊に集

結、早速道具類を現場に持ち込む。

ここで薪造り班と大木撤去班に分かれて作業に取り掛かるが、撤去作業の手順や工法について皆さんそれぞれに効率と安全性を踏まえ持論を展開、なかなかまとまらず。山側の先端を吊り上げて小切っていくことは一致しているが、その吊り上げ方で喧々諤々である。梶野君が提案した斜面の倒木と石垣の上に木を渡してチェーンブロック(小仲坊常備)で吊り上げる方式で取敢えずやってみることにする。

薪置き場の横で杉の木を一本切り(約径25cm・長さ5m)、石垣上と斜面倒木上に渡して、水路上で作業を開始する。



チェーンブロックで吊り上げ 切断



五鬼助さんも奮闘



横で見えていて、水路の大木は長さ6〜7m、太さは60cmほど、よく判らないが重量は2トンくらいありそうだ。

水路上に渡した杉の木にチェーンブロックを据えるが、重量に耐えられるのか、途中で折れて事故にならないかとヒヤヒヤしながら見ていた。

チェーンブロックを少しずつ捲き上げると大木も徐々に上昇、1mほど捲き上げたところで山川さんと梶野君が両側から交代で

30 cm位に小切って落とした。五鬼助さんも一部お手伝いくださった。

大木も徐々に短くなって軽くなってきた。渡した杉の木のため方も小さくなってきた。

吊り上げて小切る、いったん降ろしてチェンブロックの位置を下流側へ移動、再び吊り上げて小切る、この手順を4回繰り返して、約2時間半ですべてを小切りにした。意外に早く済んだなあ、と思ったと同時に事故なく処理できたことに安堵した。尚、山ヒルの被害を想定したが今回は皆無であった。



昼食後も撤去班は小切った丸太の整理や溝の整理などを行う。薪造りも一段落の後、以前の作業で隣地森本坊の敷地に積み上げた枯れ枝などを11人がバケツリレー方式で小仲坊敷地へ戻し、本日の作業を14時過ぎに終えた。

いつも皆さんからお菓子やお餅などを持参、差し入れ頂いている。今回、山本直子さんからは、チーズケーキを頂いた。お礼申し上げます。



薪造り作業



バケツリレーで枯枝運ぶ



本日の参加者

前鬼に到着時、五鬼助さんから「昨日、日本山岳会から森沢さんを含めて5名がやってきた。聞けば裏行場への途中、渡渉する垢離取場にペンキでJACCや八咫鳥の絵が描かれているようで、日本山岳会関西支部へ連絡があり、消しに来た」とのこと。平治宿の消火器事件もだが、ここでも「アホ」「不届き者」が出没したようだ、情けない話である。

撤去班の喧々諤々だが、こうなることも予想していた。着工前のミーティングなど、その手順の確認など、反省すべき点があった。

(記：沖崎、 写真：志岐・梶野)